

佐世保に残る中世の石造墓碑・供養塔



宗家松浦家当主(13代~19代)の墓石について

松浦党の自家筋である宗家松浦氏(相神浦氏)は13代盛の代に今福から現在の佐世保市竹辺町に城を築き移り住んだといわれている。13代から19代までの当主の墓はすべて相浦近辺に残存しており、13代盛の時に本拠を相浦に移した証拠となっている。宗家松浦氏は平戸松浦との永きに亘る戦いの後、16代親の時に平戸松浦氏に併合される、その後は大村や龍造寺などの有力な武将との戦いになる。しかしその争いも秀吉の九州平定により鎮圧され、18代定の頃には大村氏などと共に朝鮮出兵へと駆り出されている。その後秀吉が死去し関ヶ原で家康が天下を統一する頃には20代信貞の代で、今福に1500石の知行をもつ事になる。今福から相浦へ移住してから220年余、佐世保の地に数々の武勇と痕跡を残し、再び今福の地へもどった宗家松浦氏だった。なお、その子孫は徳川氏に取り立てられ、代々江戸に住居し幕府旗本として続いたという。

歴代当主データ	13代 盛 ^{さかり} 武辺城(1422~1467) 法名:淵月昌源	14代 定 ^{さだむ} 武辺城(1445~1492) 法名:明林昌朝	15代 政 ^{まさし} 大智庵城(1478~1498)	16代 親 ^{ちかし} 飯盛城(1497~1577) 法名:玉林宗金	17代 親 ^{ちかし} (九郎) (養子) 飯盛城(??~1574) 法名:月秋了心	18代 定 ^{さだむ} 飯盛城(1571~1593) 法名:叟春永芳	19代 正 ^{ただし} (信正) 平戸へ移る(1592~1623)
建立期	1467(応仁元年)	1492(延徳4年)	1542~1570頃	1542~1570頃		1754(宝暦4年)	1624(寛永元年) 正の子が建立
建立場所	東漸寺 (とうぜんじ) [中里町]	阿弥陀堂 (あみだどう) [竹辺町]	志賀神社 [瀬戸越] 現在は大智庵城跡	東漸寺 竹林寺 矢峰	金照寺 (こんしょうじ) [相浦町]	金照寺(相浦町) 墓は元々金照寺の本堂の所にあったが明治33年に本堂が新築されるときに現在の位置に移されている。	阿弥陀堂 (あみだどう) [竹辺町]
石種類	緑泥片岩製 (りよくでいへんがん)	緑泥片岩製 (りよくでいへんがん)	安山岩 (あんざんがん)		田舎廻にある見取図によれば、17代親(九郎)とその室の墓は金照寺にある18代定とその室の墓の間にはさまれるように建てられていたという。しかしなぜか現在は見あたらない。18代定の墓は一度移動されており、その際に紛失したのか、もしくは台座に埋もれているのかも知れない。	五輪塔 (ごりんとう)	自然石
墓種類	宝篋印塔 (ほうきょういんとう)	宝篋印塔 (ほうきょういんとう)	宝篋印塔 (ほうきょういんとう)	 [東漸寺]十三地藏塔 七角形の傘の下に上中二段に13体の仏像が彫られている大変珍しいもの			板碑
その他	市指定文化財 	 右側 現在は崩れて基壇が残っている)	市指定文化財  左側とも右側ともいわれているので確認が必要	 [竹林寺跡] 宗金と室・多見野の逆修碑があるが、多くの墓石がありどの墓かは未確認。 [矢峰]六地藏塔 田舎廻には宗金の六地藏の逆修碑が修善寺にあるとされているがその場所は不明。数回の移動で今の場所にある。柱部分に「預修 玉林宗金尊位」の文字が刻まれており、弘治元年(1555)の銘もあり、親が58歳のときのことである。		 左側 右側は室の墓)	 中央

逆修碑(ぎゃくしゅうひ):生前に死後の安泰を願って建てられた供養塔。

